

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃腸検診学会（現：日本消化器がん検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会において各県単位に「協議の場」を設置する申し合せにより発足し、31年が経過した。

発足以来、県内における老人保健法（昭和57年度～平成19年度）および健康増進法（平成20年度～）に基づく胃がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連係協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第76回協議会 平成25年6月31日（金）
(2) 第77回協議会 平成26年1月31日（金）

2. 幹事会の開催

- (1) 第95回幹事会 平成25年7月5日（金）
(2) 第96回幹事会 平成26年2月28日（金）

3. 研修会

日時：平成26年2月28日（金）
演題：「胃癌リスク診断を巡る今日までの経緯と現状」
—いわゆるABC検診導入の問題点—

講師：公立大学法人和歌山県立医科大学 第二内科教授
一瀬 雅夫 先生

4. 技術部会

- (1) 第1回 平成25年5月15日（水）
(2) 第2回 平成25年8月21日（水）
(3) 第3回 平成25年11月13日（水）
(4) 第4回 平成26年2月12日（水）

5. 講習会（神奈川県がん検診担当医師・技師講習会）

日時：平成26年3月28日（金）

主催：神奈川県 ＊共催事業

神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会名簿

	会長	今村 清子
	副会長	小林 理
横浜市立市民病院がん検診センター	検診担当部長	石山 暁
川崎市立井田病院がんセンター		佐藤 康明
(公財)逗葉地域医療センター	施設長	河村 攻
(医)松英会	理事長	寺門 節雄
(財)京浜保健衛生協会	理事長	矢作 淳
(医)倉田会 メディカルサポートクリニック	院長	宗像 覚
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	センター長	中安 邦夫
(財)神奈川県労働衛生福祉協会	会長	西平 浩一
(公財)神奈川県結核予防会	専務理事	小宮 久雄
(公財)神奈川県予防医学協会	代表理事	土屋 尚
厚木市立病院	病院長	山本 裕康
(医)社団相和会産業健診事業部	理事長	土屋 敦
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理事長	石井 敏和

相談機関

日本消化器がん検診学会		今村 清子
神奈川県保健福祉局保健医療部がん対策課	課長	佐々木つぐ巳
神奈川県医師会	理事	石井 出
神奈川県医師会	理事	羽鳥 裕
		平成26年6月1日現在 (事務局 新保 文樹)

神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、消化器内視鏡技師、その仕事に携わる人々を対象に、お互いの知識・技術の向上をめざし日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、聖マリアンナ医科大学 中野 浩先生に世話人をお願いし下記の通り行われた。

第33回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日時 平成25年4月21日（日）

会場 (財)横浜市教育会館

世話人 聖マリアンナ医科大学 消化器・一般外科
中野 浩先生

技師世話人 佐伯 美奈

内容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会

一般演題 4題

特別講演 抗血栓療法患者における消化器内視鏡

パネルディスカッション

内視鏡の医療安全への取り組み

入場者 496名

「特別講演」では、抗血栓療法中患者の内視鏡検査時の注意点について講演をしていただいた。

「パネルディスカッション」は、検査中・検査後の安全管理の取り組みや教育・訓練について各施設の体制や問題点が発表された。

顧問（五十音順）

青木 誠孝	青木医院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
西元時克禮	北里大学病院名誉教授
勝又 伴栄	北里大学病院
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院
峯 徹哉	東海大学病院
山川 達郎	帝京大学溝口病院
伊東 文生	聖マリアンナ医科大学病院
安田 宏	聖マリアンナ医科大学病院
生沢 啓芳	あいクリニック
南 康平	丹羽病院

役員

青地 広美	横浜市立大学医学部付属市民総合医療センター
石渡 美和	横須賀共済病院
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
佐藤 和夫	神奈川県労働福祉協会
佐伯 美奈	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
鈴木 瑞穂	松島クリニック
瀬戸 道雄	青木医院
谷合 幸乃	横浜市こども青年局
高木ちなつ	藤沢湘南台病院
納所けい子	神奈川県予防医学協会
花木由香里	村松内科胃腸科クリニック
平井 弘子	東名厚木病院
藤田 賢一	帝京大学溝口病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
松橋 妙子	はっとりファミリークリニック
三浦 美保	北里大学東病院
武藤美枝子	東海大学病院
矢崎るり子	横浜市民病院
山本 松男	南大和病院

(事務局 納所けい子)

子宮がん車検診実施検討会

子宮がん車検診検討会（以降：検討会）は、精度管理向上を目的とし昭和46年度に開会させた。

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村から依頼事業として当協会が配車し、細胞診断と結果報告を担当している。

検討会は、検診に協力していただいている県内の北里大学・東海大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院・相模野病院の産婦人科の医師及び県立がんセンター婦人科腫瘍専門医師のグループで車検診のデータの検証と、発見症例の再検鏡や再検証・検討を実施し、精度管理の維持向上に役立てると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施・検討している。

平成25年度検討会においては、「HPV検査併用子宮頸がん検診の実施に向けた対応について」が検討された。

また、この検討会で報告・検討された内容については、神奈川県産科婦人科医会の代表医師に対しても報告している。

（事務局：稲葉 稔明）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されている。昭和53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施した。

その後、昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に変わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長 福田護（聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長））が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が遂行されている。

同連絡会は「神奈川県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会（会長 福田護（同上）、事務局：神奈川県保健福祉局）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されている。

また、同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請している。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めている。

会 員（敬称略：順不同・平成26年8月1日現在）

会長 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック
院長 福田 護

〈医療機関名〉

横浜市立大学医学部一般外科	利野 靖
昭和大学藤が丘病院	松宮 彰彦
横浜南共済病院	松川 博史
聖マリアンナ医科大学病院	津川浩一郎
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
平塚共済病院	谷 和行
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
秦野赤十字病院	蓮尾 公篤
東海大学病院	徳田 裕
東海大学大磯病院	島田 英雄
伊勢原協同病院	飯尾 宏
平塚市民病院	金井 歳男
海老名総合病院	内山喜一郎
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
湘南記念病院	土井 卓子
東名厚木病院	日野 浩司

（事務局：稲葉 稔明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし、早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣
(川崎市立多摩病院)

平成25年度の活動状況

《第48回研究会・第25回超音波研究会》

開催日時：平成25年7月13日(土) 14:00~18:00

会場：川崎市立川崎病院 7Fホール

1. 「デジタルMMG装置の管理」
神奈川乳房画像研究会世話人 伊藤紀子先生
2. 「JABTSによる乳房超音波検査のカテゴリー分類」
聖マリアンナ医科大学病院 臨床検査部
超音波センター 阿野千紘先生
3. 「乳腺病理診断 はじめの一步」
がん研究会有明病院 病理部 堀井理絵先生
4. 「臨床画像評価」 神奈川乳房画像研究会世話人
参加者：100名

《第2回デジタルマンモグラフィ勉強会》

開催日時：平成25年9月8日(日) 9:00~17:00

会場：川崎市立多摩病院 講堂

1. 「モニター・DICOMについて」 石川光雄先生
2. 「平面検出器について」 大塚恭一先生
3. 「デジタルマンモグラフィ診断について」
内山菜智子先生
4. 「品質管理について」 石川光雄先生
実習 平均乳腺線量・CNR・SCTF・ラグ
参加者：12名

《第49回研究会・第26回超音波研究会》

開催日時：平成25年10月26日(土) 14:00~18:00

会場：地球市民かながわプラザ映像ホール

1. 「MMG読影のポイント」
国家公務員共済組合連合会
横浜栄共済病院 俵矢香苗先生
2. 「乳がん転移・再発の超音波像」
東海大学医学部付属病院 臨床検査技術科
生理検査室 小柳紀子先生
3. 「乳がんに対するラジオ波焼灼療法(RFA)」
いしいクリニック乳腺外科 今村陽子先生
参加者：63名

《神奈川県医師会主催マンモグラフィ撮影技術講習会》

開催日時：平成26年2月1日・2日

会場：横浜市立市民病院がん検診センター

参加者：48名

横浜市乳癌検診二次読影会 毎週3回

世話人会開催

平成25年4月22日 19:00~21:00

平成25年10月7日 19:00~21:00

平成26年1月27日 19:00~21:00

平成26年3月17日 19:00~20:00

於：神奈川県予防医学協会
(事務局：見本喜久子 道崎秋恵)

ピンクリボンかながわ

「ピンクリボンかながわ」は、乳がんの早期発見・早期治療をめざして、認定NPO法人乳房健康研究会と共に、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的として、平成18年度から取組み8年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。

各団体との連携による主な活動としては、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。

また、小規模の催しには、乳房模型の貸出しや自己触診方法が載ったリーフレットの提供による活動支援も行っている。

更に、横浜市の林市長とお茶を飲みながら気軽に意見交換をする「ティー・ミーティング~ようこそ市長室へ~」事業への参加が決定し、乳がんの早期発見や早期治療の重要性を訴えるピンクリボン活動を、ピンクリボンかながわと連携して活動している10名で参加した。

また、横浜市水道局で災害時の飲料水を備蓄する5年保存350ml「横浜水缶」とピンクリボンかながわとのコラボによる「ピンクリボン缶」が作製され、災害に備え、健康にも備える。備えることの大切さを多くの方々に伝えた。

「ピンクリボン活動が広げたネットワークと新たな事業」として、健康診断結果による運動アドバイスを含めた「健康づくり教室」や幼児を連れた健康診断を可能にした「ママの健康応援プロジェクト」がスタートした。

平成25年度は、県内市町村や企業等のイベントや講習会、研修会へ延べ40団体56日間、協力参加した。

本会としての主活動は、9月22日に、神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携したイベントを横浜公園、日本大通を中心に行い、更に、10月には神奈川県庁、開港記念会館、横浜マリントワー、象の鼻パークのスクリーンパネル等7ヵ所をピンク色のライトアップを行った。

役員

- | | | |
|-----------|---|-----------------------------------|
| 1. 代表 | 表 | 土井 卓子
(湘南記念病院 かまくら乳がんセンター長) |
| 2. アドバイザー | | 青野 智子 為行 勲 |
| 3. 監事 2名 | | 吉泉 英紀 (横浜市水道局)
高木富美子 (乳房健康研究会) |
| 4. 事務局長 | | 野口 正枝 (神奈川県予防医学協会) |
| | | 事務局員 7名 |

ボランティア登録90名

(協会職員・協会OB・外部応援者等)
(事務局 野口 正枝)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する支援として、精度の向上、適正な事業の運営等、共通の諸問題を協議検討すると共に労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成25年度の会員機関は15機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成25年度活動状況

第1回協議会（平成25年9月11日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・1・2-ジクロロプロパン健康障害防止措置の義務付けについて
 - ・第64回全国労働衛生週間（10月1日～7日）について
2. 講演
テーマ：「企業外健康管理機関への要望
—産業医の立場から—」

講師：あらたけ労働衛生コンサルタント事務所

荒武 優 先生

- (1) 診察医は女医の派遣が可能である
- (2) 健診会場にはキーパーソンがいる
- (3) 健診精度は外部評価の認定を得ている
- (4) ABC検診・FDT視野計等あらたな健診項目の提案ができる
- (5) 健診システムに合わせたデータ提供やシステムそのものの提供ができる
- (6) 作業環境測定が実施できる
- (7) 地方において産業保健スタッフの紹介ができる など
3. 情報交換
 - ・移動診療所の対応状況
 - ・レントゲン車医師立ち会い状況

第2回協議会（平成26年3月27日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・第12次労働災害防止推進計画
 - ・労働安全衛生法の一部改正する法律案の概要
 - ・産業保健活動総合支援事業の実施体制について
 - ・平成25年度労災保険二次健康診断等給付について
2. 講演
テーマ：「労働安全衛生法にもとづくメンタルヘルスチェック」

講師：スタンレー電気株式会社秦野製作所 産業医

池上 和範 先生

- (1) 法改正にともなう職場のメンタルヘルス対策の基本的な方向性やポイント
- (2) ストレスチェックによるメンタルヘルス対策の事例紹介
- (3) 企業外労働衛生機関への要望
3. 情報交換
 - ・労働安全衛生法にもとづくメンタルヘルスチェック
 - ・レントゲン車医師立ち会い状況
 - ・消費税変更に対する対応

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(公財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
 - (一財)京浜保健衛生協会
- (公財)結核予防会 神奈川県支部
 - (財)全日本労働福祉協会
 - (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
 - (財)労働衛生協会
 - 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院 健康管理センター
 - (公財)労働科学研究所
 - (医)社団 日健会 日健クリニック
 - (医)社団 相和会 産業健診センター
 - (社)衛生文化協会 城西病院
 - (財)逗葉地域医療センター
 - 神奈川県厚生農業協同組合連合会
 - (医)社団 同友会

※平成26年3月31日現在

(事務局 雨宮 徹)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登録機関）の健康保持増進サービス機関で組織されている。

その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

近年の高年齢労働者の増加、急速な技術革新の進展等の社会経済情勢の変化、労働者の就業意識や働き方の変化、さらには業務の質的变化等に伴い、定期健康診断の有所見率が増加傾向にあるとともに、仕事に関して強い不安やストレスを感じている労働者の割合が高い水準で推移している。

THPでは、個人の生活習慣を見直し、若い頃から継続的で計画的な健康づくりをすすめることで、働く人がより健康になることを目標にしている。

THPをすすめる場合、研修を修了した産業医が健康測定をおこない、その結果にもとづき、運動指導、保健指導、メンタルヘルスケア、栄養指導等をTHPスタッフの指導のもとにすすめていくが、このTHPスタッフが、事業所内にいない場合には、「労働者健康保持増進サービス機関・指導機関」に委託して実施することができる。

労働者健康保持増進サービス機関・指導機関は、これら事業者が取組むべき健康増進活動の計画立案・実践を企業外から支援する機関であり、積極的に活用をしていただきたい。

〈加入機関〉

- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (公財)神奈川県予防医学協会

平成26年4月1日現在

(事務局 北見 護)

肺疾患検討会

昭和56年9月に第1回の検討会を開いてから平成25年まで34年を経過し、回数も147回を迎えた。第1回時代からみると世代は第三世代目に入っているが、開催場所は毎回同じ神奈川県予防医学協会です。世話人は全く変わらず。当時と比べると大きな診断器械の差は驚異的な効果を示すCTの出現を直に体験して現在に至っている。しかし老婆心かとも思うが、若い年代の諸氏は単純X-Pで異常影をみたらすぐにCTに飛び込んでしまうのが時代の流れといつてよいものかどうか。もっとじっくりと単純X-Pを眺めて考えるのも捨ておけない診断学だと考えるのだが…。

第147回 平成25年5月28日

県立循環器呼吸器病センター 外科 田尻部長 他
 ①画像上、肺腫瘍も疑われた胸腔内肉芽腫であった1例 ②右中皮のう胞の1例 ③右肝ヘルニア（横隔膜ヘルニアの1型、72%が女性で右側） ④X-P上、腫瘍状にみえた部分肺静脈環流異常の1例 ⑤左肺過誤腫を伴った左気管支分岐異常の1例。

第148回 平成25年9月10日

横浜市立大学附属市民総合医療センター 呼吸器外科 乾教授 他
 ①61歳男性、心臓原発の滑膜肉腫の手術例 ②38歳女性、肺動脈原発の平滑筋腫の手術例 ③33歳男性、健診発見の多型性平滑筋肉腫と腸管膜に転移した平滑筋肉腫 ④82歳女性、9年経過後心タンポナーデを起した気管支のう胞。

第149回 平成25年11月26日

藤沢市民病院 呼吸器外科 吉本昇部長 他
 ①59歳男性、胸壁合併切除を行った多形性肺癌 ②76歳男性、ブラ壁から発生したと思われ、右上葉切除後に中葉無気肺を起した多形性肺癌 ③63歳男性、肺膿瘍と考えた増大する腫瘍を左肺摘除を行った多形性肺癌 ④66歳男性、肺動脈に接したリンパ節とS₂の腫瘍に対して全摘を行った小細胞癌 ⑤47歳男性、左肺内腫瘍と肺動脈浸潤を考慮して術的に迷った1例。

第150回 平成26年2月18日

『第150回記念特別講演』県立循環器呼吸器病センター 肺がん包括診療センター 加藤晃史チーフドクター 「肺癌の組織診断と治療戦略」。

(事務局 井出 研)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（公社）日本作業環境測定協会会員により設立。

現在、支部の会員は、自社1、機関25、指定1、測定士40、その他14の計81会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の連携強化を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成25年度は、全国作業環境研究発表会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

(1) 支部会議

- ①総会1回 ②理事会3回
- ③技術専門委員会5回 ④機関全体集会1回
- ⑤実行委員会2回 ⑥全国作業環境測定研究発表会

(2) 本部会議

- ①支部長会議2回

事 業

I. 全国作業環境測定研究発表会

表記研究発表会が平成25年11月13日～15日まで日本労働衛生工学会と共催で、横浜市のかながわ労働プラザで開催された。発表されたテーマは29題、全国からの参加者は約300名。井澤支部長が実行委員長を務め、実行委員は技術専門委員が担当し、盛会裏に開催できた。

II. 技術研修会

- (1) 第1回技術研修会 (H25.5.10)
 厚労省あり方検討会以降の化学物質管理の動向
 早稲田大学教授 名古屋 俊士先生
- (2) 第2回技術研修会 (H26.1.30)
 三菱重工業(株)特車事業本部
- (3) 第3回技術研修会 (H26.2.20)
 I. 最近の法令改正について
 神奈川労働局労働衛生専門官 金子 正雄氏
 II. デザインの事例について
 ①粉じんについて
 JFEテクノロジーサーチ 星野 健二氏
 ②有機・特化について
 労働衛生福祉協会 高野 広正氏
 III. デザインの精度管理について
 日本作業環境測定協会 米山 玲児氏

理事・技術専門委員名簿

理 事	技 術 専 門 委 員
支 部 長 井澤 方宏	芦田 敏文 (予防医学協会)
副支部長 吉留 浩二	佐藤 研二 (住友重機械)
〃 梅田 忠明	高野 広正 (労働衛生福祉協会)
理 事 田村 弘幸	竹内猪佐夫 (菱重エステート)
〃 佐藤 明	灰塚 正隆 (オオスミ)
〃	岸 康博 (元日産自動車)
監 事 望月 速人	堀内 京介 (山梨厚生会)
〃 三井 浩史	星野 健二 (JFEスチール)
行 政 中村 宏彰	金子 正雄 (神奈川労働局)
	(事務局 芦田 敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し39年目。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 調査研究

- ①学校現場と腎疾患医療分野の連携を図るため、茅ヶ崎市腎臓疾患判定委員会にて講演と質疑を実施。

責任者 生駒 雅昭
(本会幹事・川崎市立多摩病院小児科部長)
日 程 平成25年7月4日(木)
会 場 茅ヶ崎市総合体育館 会議室
講 演 腎疾患児の学校管理、指導について
参 加 教育委員会、学校医、養護教諭等
35名

- ②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握。

責任者 高橋 英彦
(本会幹事・こども医療センター 腎臓内科)
日 程 平成26年3月8日(土)
会 場 横浜YWCA 2階会議室
協議事項 各地区現状報告と検討
参 加 10地区担当 10名

II 運営委員会

責任者 新村 文男
(本会会長・東海大学病院医学部小児科准教授)
日 程 平成25年5月31日(金)
会 場 神奈川県予防医学協会7階役員室
参 加 7名

III 総会および研究会他

日 程 平成25年10月12日(土)
会 場 神奈川中小企業センター13階第2会議室
・役員会 14:00-
・総 会 15:00-
・定例研究会 15:30-
テーマ 「小児腎疾患総合管理研究所
—15年のあゆみ—」

講 師 北里大学名誉教授・小児腎疾患総合管理研究所所長 酒井 糾 先生
小児腎疾患総合管理研究所研究員 村内麻里奈 先生
参加人数 38名

IV 医師部会研究会

日 時 平成26年3月8日(土) 15:00-
会 場 横浜YWCA 3階ホール

- ①テーマ 「3歳児検尿の現状と課題—尿蛋白/クレアチニン比の検討を含めて—」

講 師 東海大学医学部附属八王子病院小児科 岡本正二郎 先生

- ②テーマ 「ガイドラインに基づいた最新の夜尿症治療」
講 師 昭和大学藤が丘病院 小児科・専任講師 池田 裕一 先生

参加人数 40名

V 知識普及活動

- 研究会機関誌「腎」27・28号および「じん」35号統合号の発行(1,900部)
- ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

- ◎ホームページでの各研究会のお知らせならびに参加申込の実施

(事務局・業務1課 佐藤 光宣)

禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

平成15年に「健康増進法」が施行され、神奈川県では「かながわ健康プラン21」、「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」によるタバコ対策につづき、「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月に施行された。

本会も条例の効果的な運用に協力するとともに、禁煙、分煙、受動喫煙防止対策に積極的な活動を展開している。

25年度活動内容

I. 会議

(1) 総 会 5月25日

(2) 理事会 5回

II. 事業

1. 講演会 5月25日

2. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナーへの協力
地域、学校・職域、医療関係への講師派遣
93回

3. かながわ卒煙塾 講師・相談員協力

4. 喫煙生徒に対する神奈川県教育委員会との連携・協力

5. 神奈川県医科系大学生との懇談会

6. 参議院議員 松沢成文氏講演会への協力

7. かながわ卒煙サポートセミナーへの協力

8. 全国禁煙アドバイザー育成講習会への協力

9. 第4回日本小児禁煙研究会学術集会への協力

10. イベントへの参加

上大岡駅前「禁煙キャンペーン」等5回

11. 関連会議への協力・参加 12回

12. スモークフリーキャラバンの会への協力

13. メーリングリスト(NL)の運営

14. ホームページの運営 等

役員(理事会)の構成(26年6月7日現在)

会 長 中山脩郎(神奈川県内科医学会名誉会長)

副会長 中澤明紀(神奈川県立循環器呼吸器病センター所長)

〃 杉本達也(神奈川県歯科医師会常務理事)

〃 高橋洋一(神奈川県薬剤師会副会長)

会計、監事、理事 40名

(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等)

(事務局 栗原 博)

スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守るための公共的空間における新たなルールとして、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月1日より施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するため、民間と行政が相互に理解と協力のもとに対策を推進し、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けている。

（スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です）

設立呼びかけ人

- 公益社団法人神奈川県医師会
- 一般社団法人神奈川県歯科医師会
- 公益社団法人神奈川県薬剤師会
- 公益社団法人神奈川県病院協会
- 公益社団法人神奈川県看護協会
- 神奈川県

25年度活動内容

1. 受動喫煙防止県民フォーラムへの協力
11月23日、クィーンズスクエア横浜
2. 受動喫煙防止キャンペーンへの協力
啓発グッズとしてのクリアファイルの提供
5月28日～6月3日、横浜公園

役員（運営委員）の構成（平成25年10月現在）

- 委員長 羽鳥 裕（神奈川県医師会理事）
- 委員 浅川章光（神奈川県歯科医師会副会長）
- 〃 大塚孝明（神奈川県薬剤師会理事）
- 〃 吉田勝明（神奈川県病院協会副会長）
- 〃 星野織江（神奈川県看護協会常務理事）
- 〃 中澤明紀（神奈川県保健福祉局参事監（兼保健医療部長）
（事務局 栗原 博）

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会
期日、テーマ、講師、参加人数
4月6日「姿勢と健康―体調不良の原因は姿勢にあり―」、碓田拓磨・虎ノ門カイロプラクティック院院長、22人
- 5月11日「救急法―短期講習―」、日本赤十字社神奈川支部指導員、15人
- 6月8日「子どもの心をまもる」、坂本 勤・詩画家、14人
- 7月13日「ワコール ツボミスクール」、ワコール社インストラクター、10人
- 9月28日「ゆたかな心を持つこどもを育てるために」、丸山博子・あさお芸術のまちコンサート実行委員長、12人
- 10月19日「目からウロコのコミュニケーション術」～思春期の子どもを持つ、保護者との対応～、斉藤智子・コンフィダントコーチ、コンフィダントジャパン代表取締役、23人
- 11月9日「保健室でできるカウンセリングのスキルアップ」、田村 毅・田村毅研究室、児童・思春期精神科医、12人
- 12月1日「総合診療医から学ぶ―保健室でのあんなこと、こんなこと―Part 2」、北垣 毅・花見川中央クリニック院長、40人

26年

- 1月19日「ネット依存の実態と予防」、三原聡子・独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター・心理療法士、43人
- 3月8日「神奈川県学校・腎疾患管理研究会医師部会」との合同開催、岡本正二郎・東海大学医学部付属八王子病院小児科、池田裕一・昭和大学藤が丘病院小児科・専任講師、12人
- 3月29日施設見学会、Daiichi Sankyoくすりミュージアム・5人

2. 夏期講習会

- 日 時：平成25年8月7、8、9日
テーマ：いのちを生きる子どもの成長に寄りそって
参加者数（延べ）：540人
- 7日「発達障害児の理解と対応のポイント」宮本信也・筑波大学人間系長
 - 8日「総合診療医から学ぶ―保健室でのあんなこと、こんなこと―、北垣 毅・花見川中央クリニック院長「湿潤療法―早くて安くて痛くない、キズの治し方教えます―」、和田浄史・川崎協同病院外科科長
 - 9日「摂食障害―学校でできること―、鈴木（堀田）眞理・政策研究大学院大学教授
「学校でできるリラクゼーション」大多和二郎・臨床心理士

会員状況

小学校15人、中学校15人、高校・短大15人、その他14人、計59人

役員（順不同、敬称略、平成25年5月31日現在）

- 顧問 高田 和子
- 名誉会長 山口 京子
- 会長 鈴木 晴美
- 副会長 藤沢 恵子（横浜市立南舞岡小学校）
- 幹 事 佐藤まゆみ（神奈川県立川崎高校）
- 木村千恵子（川崎市立千代ヶ丘小学校）
- 平山 京子（北鎌倉女子学園）
- 菊池 幸江（川崎市立南河原中学校）
- 後藤 和泉（秦野市立本町中学校）
- 坂井 悦子（横浜市立藤の木小学校）
- 角田美桜子（厚木市立荻野中学校）
- 監 事 中川 優子（藤沢市立藤ヶ岡中学校）
- 工平 きん（横浜市立勝田小学校）

（事務局 船崎隆文）